

別紙1 (概要文)

題名 ダイオウヤシの植栽検討について

南部国道事務所 管理二課長 おおしろ りょうえい 大城 良英 ◎

施設係長 はしもとらいし 橋本 雷士 ◎

1. 目的

国道330号北中城村（ライカム～石平間、約3km）の街路樹であるダイオウヤシは、昭和52年頃に約430本植栽され、経年に伴い樹木の倒木、枯損等により、282本にまで減少（H23年12月現在）。また、樹木の巨大化に伴い経年劣化、強風による頭部損傷及び枝葉垂下り等による国道への飛来等、危険な状態であるため維持管理上の対策としてバンドの設置、枝葉の定期的な除去、網掛け対策等実施していたが、景観上厳しい状況となっていた。平成23年夏の台風2号により植栽後（約37年）初めて2本の倒壊を確認、さらに危険性が高まったため、安全の確保対策の観点から検討を行った。

2. 内容

「道路通行の安全性」、「景観」及び、「維持管理等」考慮した整備方針の検討を行うため、有識者、地元首長、道路管理者をメンバーとする「国道330号（北中城村ライカム～石平間）植栽検討委員会」を設立し、対応検討を図る。

強風による枝葉の落下、台風での上部損傷倒木等があり「道路通行の安全性」の確保が厳しいとして、ダイオウヤシを撤去し新たに植栽することと決定。その一手法として、アンケートを実施、その結果等を参考とし樹種・植栽配置についても決定した。選定方法は、市場調査、安全性、維持管理、樹木の特性などを考慮し、特に維持管理の面から耐潮風性、虫害、枯葉の除去頻度、初期投資費、景観を総合的に評価し決定。

3. 結論

ダイオウヤシを撤去し、同じヤシ科のトックリヤシモドキ、ビロウを植栽することとした。

植栽配置については規則式植栽として、既存植生で一部残存するトックリヤシモドキを有効利用しトックリヤシモドキ箇所とビロウ並木に分割することとなった。

4. 今後の課題

- ・ライカム交差点内の、交通島植栽計画については本線部樹種との連続性を考慮して、地元要望も踏まえ道路全体のシンボルとなるような植栽の検討が必要。
- ・H25年度からの施工実施に向け限られた年間維持費から捻出し植栽を計画的に実施する必要がある。